

## 安倍首相の靖国神社参拝に断固抗議する（談話）

2013年12月26日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

安倍首相は26日、靖国神社への参拝をおこないました。

靖国神社は、かつて日本の侵略戦争を推進したA級戦犯を祀っており、アジア太平洋戦争を「自存自衛の正義の戦争」とする特異な思想にたつ神社です。

安倍首相の靖国神社参拝は、過去の侵略戦争の明確な否定の上に制定された日本国憲法に明確に反するものであり、断じて許されません。

私たちは、今回の安倍首相の靖国神社参拝に強い怒りを持って抗議するものです。

安倍首相は参拝後の記者会見で、「日本のために尊い命を犠牲にされたご英霊に対し、尊崇の念を表わした」などと述べていますが、そこには、2千万人のアジアの人々と日本国民310万人の命を奪った無謀な侵略戦争への反省は見られません。

このような首相の行動は、「侵略戦争についての定義は定まっていない」として過去の戦争の侵略的本質を否定する歴史認識にもとづくものであり、秘密保護法強行など「戦争する国」づくりと一体のものです。

安倍首相の靖国神社参拝に対しては、国内世論とともに、日本の軍国主義復活に抗議するアジアの国々や欧米からも厳しい批判の声が上がっています。それは、侵略戦争の否定の上に成り立っている今日の国際秩序そのものへの挑戦であるからです。

私たちは、安倍内閣による日本国憲法と戦後国際秩序を否定する暴挙を断じて許さず、アジアと世界の平和を実現するために奮闘する決意を表明するものです。

以上